

殺虫剤
ガットサイドS
MEP乳剤

平成28年5月25日付けで以下の適用拡大が登録されました。

【変更内容】

- ・作物名「なつめ」および「くるみ」を追加する。
- ・作物名「りんご」の適用病害虫名「ゴマダラカミキリ」を「カミキリムシ類」に変更する。
- ・作物名「もも」の使用方法に「樹幹部及び主枝に散布」を追加する。
- ・作物名「大粒種ぶどう」および「小粒種ぶどう」を「ぶどう」に変更する。
- ・作物名「いちじく」の適用病害虫名「アイノクイムシ」の使用方法に「主幹部に塗布」を追加する。
- ・使用方法から希釈倍数を削除し、「塗布又は散布」を「塗布」と「散布」に分離し、使用液量欄を設ける。

前頁より続く

【変更後】

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈 倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤 の 使用 回数 | 使用方法 | MEP を含む 農業の 総使用回数 |
|-------|---------------------|------------------|-----------------------|---------------------------------------|---------------------|------------------------------------|---|
| みかん | ミカンガタムシ | 1(原液) ~1.5倍 | — | 5~6月(成虫発生期直前) 但し収穫90日前まで | 1回 | 直径3cm以上の主枝、垂主枝、側枝に 塗布 | 5回以内 (樹幹処理は 1回以内) |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 直径3cm以上の主枝、垂主枝、側枝に 散布 | |
| | カキリムシ類 | 1(原液) ~1.5倍 | — | 6~7月(産卵初期~ 産卵最盛期直前)但し 収穫90日前まで | | 樹幹の地際部から約30~40cmの高さ まで塗布 | |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 樹幹の地際部から約30~40cmの高さ まで散布 | |
| なつみかん | ミカンガタムシ | 1(原液) ~1.5倍 | — | 5~6月(成虫発生期直前) 但し 収穫120日前まで | 1回 | 直径3cm以上の主枝、垂主枝、側枝に 塗布 | 3回以内 (樹幹処理は 1回以内) |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 直径3cm以上の主枝、垂主枝、側枝に 散布 | |
| | カキリムシ類 | 1(原液) ~1.5倍 | — | 6~7月(産卵初期~ 産卵最盛期直前)但し 収穫120日前まで | | 樹幹の地際部から約30~40cmの高さ まで塗布 | |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 樹幹の地際部から約30~40cmの高さ まで散布 | |
| りんご | カキリムシ類 | 1(原液) ~1.5倍 | — | 6~7月(産卵初期~ 産卵最盛期直前)但し 収穫30日前まで | 3回 以内 | 主幹地際部から約50cmの高さまで 塗布 | 3回以内 |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 主幹地際部から約50cmの高さまで 散布 | |
| | シコクアキゾウムシ | 1(原液) ~1.5倍 | — | 5月下旬~6月下旬 (産卵期)但し 収穫30日前まで | | 主幹地際部から約50cmの高さまで 塗布 | |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 主幹地際部から約50cmの高さまで 散布 | |
| もも | コスカハ | 1.5倍 | — 100~1000 mL/樹 | 収穫30日前まで | 1回 | 樹幹部及び主枝に塗布 樹幹部及び主枝に散布 | 6回以内 (樹幹処理は 1回以内) |
| ぶどう | コウモリガ | 1(原液) ~1.5倍 | — | 幼虫喰入期直前~ 喰入初期 但し 収穫21日前まで | 2回 以内 | 主幹部に塗布 | 4回以内 (収穫終了後 から萌芽まで は2回以内、 萌芽後は 2回以内) |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 主幹部に散布 | |
| かき | ヒメコスカハ カキキマダラメイガ | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | 産卵期~幼虫喰入初期 但し 収穫45日前まで | 1回 | 主幹部、主枝及び垂主枝の分枝部に 散布 | 3回以内 (樹幹処理は 2回以内) |
| いちじく | カキリムシ類 | 原液 | — | 4~7月 但し 収穫7日前まで | 3回 以内 | 株元から結果母枝まで塗布 | 3回以内 |
| | | 原液 | — | | | 主幹部に塗布 | |
| | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | 4~9月 但し 収穫7日前まで | 主幹部に散布 | | | |
| くり | キイムシ類 | 1(原液) ~1.5倍 | — | 3~5月(産卵初期) | 1回 | 樹幹の地際部から約1.5mの高さまで 塗布 | 4回以内 (樹幹処理は 1回以内) |
| | | 1.5倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 樹幹の地際部から約1.5mの高さまで 散布 | |
| | コウモリガ | 1(原液) ~1.5倍 | — | 裂果前まで 但し 収穫90日前まで | | 樹幹の地際部から約1.5~2mの高さ までの主幹及び主枝に塗布 | |
| | | 2倍 | 100~1000 mL/樹 | | | 樹幹の地際部から約1.5~2mの高さ までの主幹及び主枝に散布 | |

次頁へ続く

前頁より続く

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈 倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤 の 使用 回数 | 使用方法 | MEP を含む 農業の 総使用回数 |
|-----|---------|----------------|------------------|------------|---------------------|----------------------------|----------------------------|
| なつめ | かみきりムシ類 | 1(原液) ～1.5倍 | — | 収穫 30 日前まで | 1 回 | 樹幹部及び垂主枝に塗布 | 1 回 |
| | | 1.5 倍 | 100～1000 mL/樹 | | | 樹幹部及び垂主枝に散布 | |
| くるみ | コウモリガ | 原液 | — | 収穫 7 日前まで | 2 回 以内 | 樹幹の地際部から約 1.5m の高さまで 塗布 | 2 回以内 |

使用上の注意事項の変更

【変更前】

- ・本剤を産卵、喰入防止に使用する場合は残効性は短く、使用時期を失すると効果が劣るので、適期にむらなくていねいに使用するよう注意すること。
柑橘のかみきりムシ類、りんごのゴマダラかみきり防除には6～7月の産卵最盛期直前、くりのキクイムシ類防除には芽出し直前（産卵初期）、りんごのシクアアナキゾウムシ防除には5月下旬～6月下旬（産卵期）が使用適期である。
- ・薬液が葉にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように樹幹部のみに散布すること。特に新葉時期は薬害が生じやすいので散布は注意すること。
- ・あぶらな科作物を初め、作物の茎葉には薬害を生ずるおそれがあるので付近の作物にはかからないように注意して使用すること。
- ・くり及びぶどうのコウモリガに対しては幼虫喰入期直前～喰入初期に地際部から1.5～2mまでの主幹及び主枝に原液～1.5倍液をていねいに塗布するか所定の希釈液を十分ぬれるように散布すること。
コウモリガの被害は特に地際部に多いので地際部に薬液が十分付着するように処理すること。
なお、ぶどうの場合、新梢への処理は薬害を生ずるおそれがあるので、新梢部の被害防止を目的としては使用しないこと。
- ・もものコスカシバ及びかきのヒメコスカシバ、カキノキマダラメイガに対しては産卵防止効果及び喰入防止を主体に春～秋の産卵期～幼虫喰入初期に樹幹部及び主枝に十分塗布又は散布すること。
なお、喰入後の幼虫に対しては使用する場合は、あらかじめ粗皮や虫糞を取除いてから塗布又は散布すると効果的である。
カキノキマダラメイガは樹幹の分枝部に被害が多いので分枝部を主点に処理すること。
使用に際しては薬液が葉にかかると薬害を生ずるので、かからないように注意して散布すること。
- ・本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

次頁へ続く

前頁より続く

【変更後】

- ・本剤を産卵、喰入防止に使用する場合は残効性は短く、使用時期を失すると効果が劣るので、適期にむらなく、ていねいに使用するよう注意すること。
柑橘のカミキリムシ類、りんごのカミキリムシ類防除には6～7月の産卵最盛期直前、くりのキクイムシ類防除には芽出し直前（産卵初期）、りんごのシコクアナアキゾウムシ防除には5月下旬～6月下旬（産卵期）が使用適期である。
- ・薬液が葉にかかると薬害を生じるおそれがあるので、かからないように散布すること。特に新葉時期は薬害が生じやすいので散布は注意すること。
- ・あぶらな科作物を初め、作物の茎葉には薬害を生じるおそれがあるので付近の作物にはかからないように注意して使用すること。
- ・適用表に記載された所定の部位に薬液が十分付着するよう、ていねいに処理すること。
- ・もものコスカシバ及びかきのヒメコスカシバ、カキノキマダラメイガに対しては産卵防止効果及び喰入防止を主体に春～秋の産卵期～幼虫喰入初期に処理すること。
なお、喰入後の幼虫に対しては使用する場合は、あらかじめ粗皮や虫糞を取除いてから塗布又は散布すると効果的である。
カキノキマダラメイガは樹幹の分枝部に被害が多いので分枝部を主点に処理すること。
- ・本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に薬液がかかると変色するおそれがあるので、薬液がかからないよう注意すること。

使用上の注意事項などについては、製品に貼付されているラベルを参照のこと。

住友化学株式会社